

# いちご（トンネル早熟・露地）

## 栽培暦

月	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	4	5	6		
作型															
トンネル早熟	トンネル												トンネル早熟		
露地													露地		
	親株育成配置		仮植		花芽分化	定植		追肥	マルチ被覆		下葉かき	トンネル被覆	下葉かき	収穫	親株選抜

## 栽培の特徴とポイント

土壌適応性は広いが、浅根性で耐肥性も弱いので、腐植に富み、排水性、保水性の良い土壤が適する。トンネル早熟栽培は、積雪の恐れがなくなった早春にトンネルをして保温する。収穫は露地栽培より2週間程早めることができる。

## 品種

つぶるまん：果数型で、果実はやや丸みのある円すい形で大きく、鮮赤色で比較的硬い。甘みと酸味のバランスが良く味にコクがある。根腐れ病抵抗性が強く水田転換畑に向く。ランナーの発生は多く増殖しやすい。

宝交早生：果数型で、果実は円すい形の鮮紅色で柔らかく、ランナーの発生が多い。着果数が多い反面、小果が多くなりやすい。

## 育苗

### 1 親株床

#### 1) 親株の必要数量

作付け予定面積（株数）に応じて、苗を採取する親株数を決める。

- (1) 本ば 10a に定植する苗数は 3,800 ~ 5,300 株
- (2) 親株 1 株から採取できる苗数は約 30 株
- (3) 本ば 10a を作付ける場合には 120 ~ 180 株の親株が必要

#### 2) 親株の選定

親株は、各期間を通して生育旺盛で、葉が大きく、複葉が正常に展開し、果梗が太く長く、ウイルス病やメセンチュウ等の病害虫の被害がない株を選ぶ



## 本ほ管理

### 1 本圃準備

#### 1) 作業手順

堆肥、苦土石灰、過石は定植の1ヶ月前、その他の基肥は定植1週間前までに施用し耕起する。畝幅は125～150cmとし、かん水、排水が十分できるよう高畝にする。

施肥設計例(kg/10a)

肥料名	総量	基肥	追肥 11月上旬	成分量		
				N	P	K
完熟堆肥	2,000	2,000				
苦土石灰	100	100				
過磷酸石灰	40	40			7.0	
そさい3号	80	80		12.0	12.0	12.0
ミドリトップ	10	100		6.0	6.0	6.0
やさい磷加安540	20		20	3.0	2.8	2.0
合計				21.0	27.8	20.0

#### 2) 定植

##### (1) 栽植密度

畝幅は125～150cm×株間30～35cm、2条千鳥植え、3,800～5,300株/10a

##### (2) 定植作業

定植は地温が13～18℃に下がる頃が適期であり、10月1日～10日に行う。苗の掘り取りは、本葉4～5枚、1株重20～25gのものを、根を切らないよう土を十分付け、根を乾かさないうちに行う。苗の大きさを揃え、ランナーの出る方向(古いランナーの逆方向)に花房が伸びるので、花房が外を向くようにして、芽が土に隠れないよう浅植えする。植え付け後、十分かん水し、活着を促す。

### 2 栽培管理

#### 1) 株の整理

活着後マルチング前、トンネル被覆前、収穫始めのそれぞれに下葉かき及び芽かきを行う。下葉かきは、古葉、病葉のみとし、一度に1～2葉にとどめ、芽かきは頂芽(第1花房)とその下部の最も発育した腋芽1～2芽とし、他の弱小腋芽を除去する。

#### 2) 追肥

11月上旬頃、速効性化成を株間、畝肩に追肥する。施用は表土が湿っている雨の後か、かん水後に行い、葉にかからないよう注意する。

#### 3) マルチング

10月上旬の追肥後で、降雨後の土壌が湿っている時期に、黒色ポリフィルムをマルチ被覆する。マルチング後、晴天時の高温で葉焼けをおこすことがあるので注意する。

#### 4) トンネル被覆と管理

トンネル早熟栽培では、融雪後積雪の心配がなくなったら、なるべく早い時期にトンネルをかけて蒸し込みを開始する。トンネル内の日中の温度管理は、下記の表を参考にし、放射冷却で降霜が予想される場合は、こも等で保温する。

被覆後10日間	出蕾期まで	開花期まで	果実肥大期
35	28～30	25	20～23

#### 5) かん水

着果期以降は果実の品質と鮮度保持のため、乾燥させないように注意し適宜かん水する。

#### 6) 防鳥網の設置

カラス等の鳥による食害を防ぐため、収穫開始の10日前までに防鳥網を張る。周囲を防風ネットで囲い、上部のみ防鳥網とすることにより作業性はさらに高まる。

### 3 収穫作業

トンネル早熟では5月上旬頃から、露地では5月下旬から収穫が始まるので、着色を見ながら収穫する。高温時の収穫は傷みが早いので、早朝の涼しい時間帯に行う。

### 4 調製作業

収穫した果実は、速やかに日陰の涼しい場所または保冷庫に運び鮮度の保持に努める。規格に基づいて選別し、特に病虫害被害果や変形果が混入しないよう注意する。大きさ・形・着色程度別に、揃ったものを同方向にパック詰めする。

## 病虫害防除

育苗中は高温条件でアブラムシ、ハダニ、うどんこ病、多湿条件で輪斑病が発生しやすいので注意する。収穫期に灰色かび病やうどんこ病が発生すると果実が出荷できなくなるので、予防散布に努める。

## 販売のポイント

収穫からパック詰めまで、鮮度を低下させないように注意し、朝どり等で地場産のメリットを生かして有利販売する。